

香港旅行記 2023

2023/05/25～05/29



トラム&2階建てバスの魅力に目覚める



宿泊中のホテルにガサ入れ!



トランスフォーマーカフェ

円安と物価高は痛かったけど、やはり香港たのし！美味し！

(安い飯屋ばかり回っているように見えるのは気のせいではないです)



トランスフォーマーのハンバーガー。Facebook に載せたら「反対側のバンズはデストロンのロゴでしたか？」という質問が来ました。



目次

この本について	2	2日目観光開始	24
香港ドルのレート	2	道に迷って、朝食	24
Covid-19 をめぐる状況の軟化	3	東方 188 商場	25
よし、香港、行くぞ	6	香港島のトラム	26
		MTG Mint Card	27
		これからの予定	29
PART1 香港の洗礼		The Ark (トランスフォーマー・テーマレストラン)	30
2023 年 5 月 24 日 (水) 日本を出国	8	電腦オタクビル再訪	31
2023 年 5 月 25 日 (木) 香港入境	9	宿に戻る	32
市内へのバスチャレンジ (失敗)	9		
市内入り	10		
重慶大廈ダンジョン	11	PART3 荔枝角・旺角	
澳門茶餐廳で朝食	12	2023 年 5 月 27 日 (土) 本日の予定	34
鳴らない、電話	13	二階建てバス	34
D 座 10 階のロビーに行け	13	会場近くでランチ	35
ドアが開いた	14	同人イベント Pure Love	36
アーリーチェックイン	15	BattleGround (マジックショップ)	37
尖沙咀の観光開始	15	信和中心 (シノセンター)	38
「警察のものです」	18	女人街	38
重慶大廈封鎖中	19	ラムステーキを食らう	39
PART2 香港島		PART4 深水埗など	
2023 年 5 月 26 日 (金) 部屋のチェック	21	2023 年 5 月 28 日 (日) 深水埗へ	42
新調した旅行財布	22	おもちゃ問屋街	43
荷物チェック	23	買った	43

黄金電腦商場	44	PART5 帰国日	
旺角のマジックショップ	45	2023年5月29日（月） 帰国日	51
先達広場	46	朝食のビリヤニ	52
昼食のハンバーガー	46	京都念慈菴の枇杷のど飴	52
旺角電腦中心	47	チェックアウト	53
宿に戻る	47	さらば重慶大廈	54
141 を覗いてみる	48	空港へ	54
香港の夜も終了	49	搭乗	55
		帰国	55
		あとがき	56

この本について

本書は2023年5月24日（水）～5月29日（月）に筆者が香港に4泊6日の観光に行った際の、いつものたのしい海外旅行記です。なお、本書中ではしばしば「マジック」と称されているものはカードゲーム「マジック・ザ・ギャザリング」のことです。

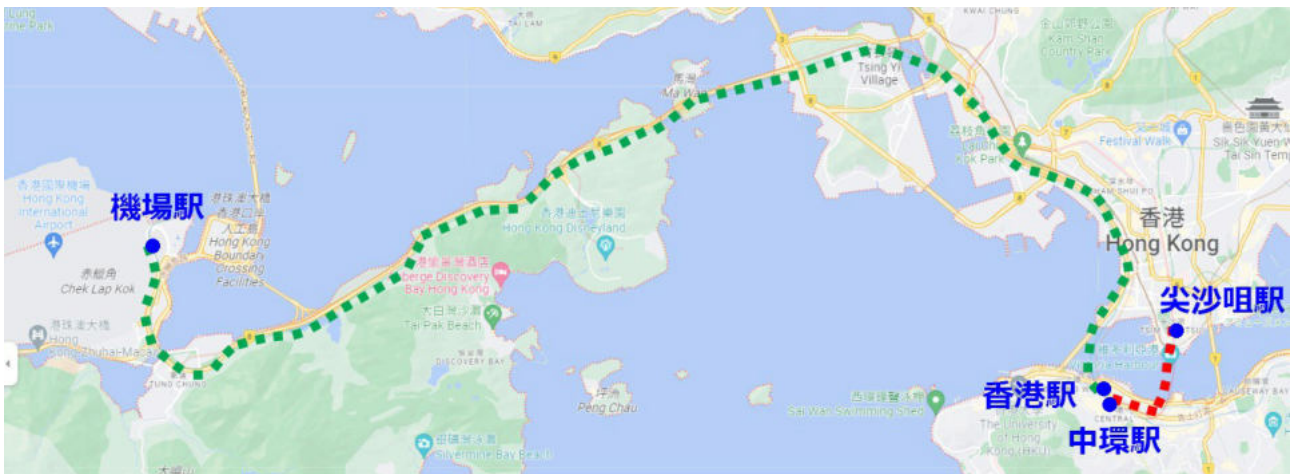
でも正直、そろそろこの注釈がいらなくらいにマジックのネタが少なくなってる…。

香港ドルのレート

特に断りのない限り、本書での通貨「ドル」というのは「香港ドル」（HKD）を指しています。今も円安が進行中であり、香港ドルのレートは出国日に17.78円、帰国日に17.94円という所。筆者は例によってATMキャッシングの帰国後返済をやったのでほぼ18円で使えたのですが、感覚的に20を掛けていたのと、数年前は15円だったよなというのと最近の香港の物価高騰ぶり（のように見える）から「…高いなあ」と見送った記述は本書にもしばしば出てきます。とはいえ観光を楽しめなければ本末転倒なので、正直なところせめて18円のつもりでもう少しは出費を惜しまなかったほうが精神衛生上良かったかなとは思いました（笑）。

PART 1

香港の洗礼



重慶大廈ダンジョン

7時45分、地上に上ると重慶大廈はすぐ発見できましたが、香港の安宿はここからが本題です。まず目的のホテル「Icon INN」（※）の住所をサイトで確認します。

※<https://www.agoda.com/ja-jp/icon-inn/hotel/hong-kong-hk.html>

E5, 16/F, Block E, Chung King Mansion 36-44 Nathan Road, Tsim Sha Tsui, Kowloon, HK
すなわち重慶大廈の「E座」16階のE5（さらに細かい区分け）をまずは目指します。

重慶大廈は建物全体がA～Eの座（ブロック）に分けられた構造で、**抜け道**を通る感じで隣の座に同じフロア内で移動するのも不可能ではないのですが、通常はあまりやりません。地上階（グラウンドフロア）では全部の座ごとにあるエレベーターにアクセスができるので、通常は目的の座を確認したうえで、その座へのエレベーターを探してそれで昇ります。なお座ごとに2つのエレベーターがありますが、偶数回と奇数階でエレベーターを分けているので、つまり自分の目的の座の階に直接行けるエレベーターは小さいのが1台のみ。割と混雑します。また以後はいちいち断りませんが、香港では英国式の「グラウンドフロア」があるので、この「16階」というのは日本で言えば「17階」になります。※本書では現地表記にします

そして目的地の16階E5ブロックに到着するなり、E5ブロック（この宿）の施錠されたドアに張り紙。OK 想定内。5年前の旺角の安宿のときにはここから電話をして「受付は〇階×号室にあるので、来てください」からスタートしたのだ。香港あるある。ではさっそくこの番号のどちらかに電話…と思ったものの、いまのこのSIMはデータ通信のみで**電話がついてない**ことに気が付いた。しまった。なにが「想定内」じゃい。



この「What's App」というのは「声かけて」ではなく「メッセージングアプリを使用しろ」の意ではないのかという説も出ましたが、そのアプローチは取らなかったのが未確認です。まあアプリの固有名称であれば厳密にはアポストロフィは入らないのですが。

重慶大廈封鎖中

ガサ入れ騒動が一段落すると 18 時半。このまま部屋で今夜はゼルダでも良かったんですけど、やはり小腹がすいてきたのと、外で何かあったのかの好奇心を抑えることができなかったのも、普通に身支度をして、警官に呼び止められたときにすぐ提示できるようにパスポートも持参して部屋を出てエレベーターでグラウンドフロアまで降りました。

じゃあ夕食はこの裏手にあった筈のインド料理店に行ってみるか…と思いつつ、E 座そばの裏口から外に出ようと思ったら、何やら赤いテープで通せんぼされており、外に立ってこちらを見ていた警官と目があうなり首を左右に振ってきました。えっ？ ということ？

改めて正面の出入り口に向かうと、正面も赤いテープで封鎖されており、入り口の通路の所には **100 人くらいの警官**が居ました。自分も含めた観光客も多数で、割とカオスな雰囲気。…そうか、そういうことかリリン。いまの香港では宿泊客をチェックしているとかそういうものではなく、いまは**重慶大廈のビル自体が封鎖**されているということの模様。理由は不明ですが、犯罪者あるいは反政府運動家が重慶大廈に逃げ込んだとかいう話なんでしょう。事前に仕入れた香港同人誌で「面倒ごとに巻き込まれたくなければ、面白がって警官の写真とか撮らないほうがいいです」とも書かれていたので、この**極上のネタ**を前にしてそれは自粛しましたが。

よりによって「自分が**香港に来た日**の夜にコレかよ」というネタ感が半端なかったのですが、とりあえず「いまの香港では宿泊客のチェックとガサ入れを毎晩している」とか「いまの香港では夜に街を出歩かないほうがいいです」とか、そういう話ではなかったのはひと安心。実際、本書の先で書きますけど、いわゆる「夜遊び」ゾーンにも踏みこんだりしています。

それはそれとして、重慶大廈の封鎖がいつ解かれるなんて分からない以上、外で夕食のプランは断念します。重慶大廈グラウンドフロアの飯屋はインド料理とかばかりなんですけど、それほど空腹でもなくビリヤ二腹でもなかったのも、果物屋でバナナを指して「いくら」と聞いたら 3 本 10 ドルということで即応。あとはミニツツメイド 1 本 10 ドルを買って部屋に戻ります。

あとは部屋でバナナやらで腹を満たし、ゼルダを遊んで、日付が変わる頃に就寝。

PART 2

香港島



トラム最高！

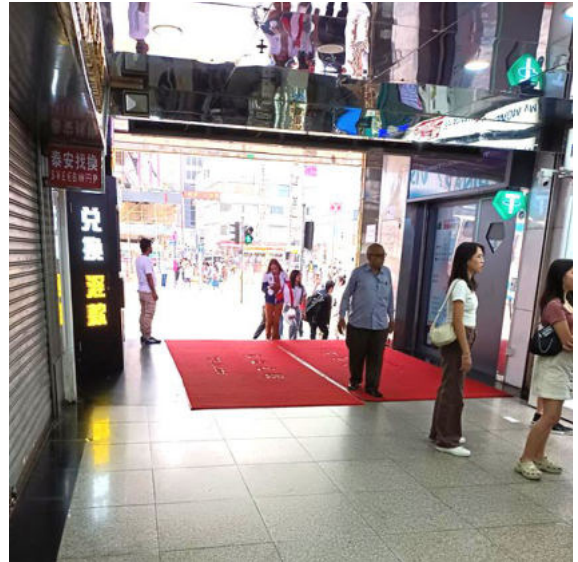
2 日目観光開始

9時半。本日まず訪れる予定の香港島のモールは10時に開くので朝食のことも考慮して早すぎることはないのですが、どうせモールは開いても中のテナントはぼつぼつと、場合によっては午後から開くというパターンでしょうから慌てる必要はありません。とはいえそろそろ空腹も感じてきたので、出ましょう。

結局、今回の宿はE座の16階だったわけですが、16階というのは最上階なので下りのエレベーターが満員で乗れず降りられなくなるということではなくて良いねという気づき（割と朝方など混雑します）。まあ、ビル全体が火事になったら助からないけど。

昨夜は封鎖され100人くらい警官がいた重慶大廈の正面出入り口。いまは平常運転。

結局、あれはなんだったのかなー。



10時、MTRの尖沙咀駅に移動して乗車。荷物は多くないし、下りならまだ階段でも我慢できます。10分後には乗り換えたうえで湾仔駅に到着。正直、MTRは乗ってからは快適なんだよなー。

道に迷って、朝食

本日の第1チェックポイントである「東方188商場」（ビデオゲーム系オタクモールらしい）は、湾仔のA2出口から東に100mくらいの場所らしいので、まずはそれを確認してから朝食だなと思ったんですが、まあ迷うこと迷うこと。ていうか、グーグルマップがまともに現在地や方向を示してくれないので、このナビに従っているとまったく目的のビルにはたどりつけません。少し歩いたら平気で通りが**一本ずれる**という割と致命的な案内をしてくれるので同じ場所を行ったり来たりしたり、目的の建物にたどり着いても改めて建物の入口を探してさらにブロックの回りをぐるぐると周回したりします。

このパターンは後に理解してグーグルナビに頼るのを**完全に止める**まで、今後も頻出します

さっそく目の前に停車しているトラムに前から乗車し、オクトパスを「ピッ」と鳴らして入る。運転手が「あ…」とこちらにひと声かけてきたのですが、制止される風でもなかったので構わずそのまま座ります。トラムは11:55に出ました。車中スマホで「香港　トラム」とか検索して、トラムの基礎知識・乗り方・降り方を学びます。

- ・香港のトラムは、香港島で利用することができる路面電車。
- ・基本は、東は筲箕湾から西は堅尼地城までを東西に横断するループ構造。すなわち香港島の麓の大通りを端から端までトラム1本で移動できるようになっています。
- ・厳密には分岐している部分もあるのですが、基本はこの東西横断。すなわち香港島の市街で**おおむね行きたい所**がこれ1本で行けるし、バスのように間違えて遠島流しもしなし。
- ・だいたい朝の6時から日付が変わる頃まで運行しているみたい。
- ・運転間隔は非常に短い。ラッシュ時は90秒で次のヤツが来るとか。
- ・料金は一律3ドル。いいね！
- ・中央で乗って、前から降りる際に料金の支払い。

ああそうか、さっき乗る時に運転手が変な顔をしたのは、料金は降りる時に払うものだったからか、納得。

もしかしたら降りる時に「乗る時に払ってしまったから、降りる時には払わなくていいよね？俺の顔は覚えてる？」とかやることも可能だったかもしれないけれど、3ドルを惜しむほどじゃないなということで、そのまま降りる際も素直に支払うことにしました。

なにしろ線路沿いなので迷う要素はなかったものの、最初なので地図で現在地を常時確認していたら、25分後には目的地の駅に到着しました。**あほのように快適**でした。なるほど、これが香港島を観光する際の足だったんですね。香港島内の東西移動では、タクシーもMTRもいない。



MTG Mint Card

それでは本日の第2チェックポイントである「MTG Mint Card」を探して入店しましょう。いま

PART 3

荔枝角・旺角



「翠豪園」という香港のチェーン店みたい。

<https://www.facebook.com/thyltd/>

揚州炒飯とコーヒーのセットで 53 ドルです。

普通に庶民飯ですね。

揚州炒飯というのはあまり分からないで注文



したのですが、味は悪くないものの割と薄味の大味です。この店がそうなのか、揚州炒飯というものがそもそもそういうものなのかはいまひとつ不明ですが、いずれにせよ**量も多い**し、いまの自分の胃袋で完食するのは厳しいなー、と思えたので食べただけ食べて 4 割くらい残しました。たぶん庶民飯チェーン店としては良い店なんじゃないかなー。コーヒーと朝の薬を飲んで出ます。

同人イベント Pure Love

正午に会場に到着して、待機列らしきものができていたのを「？」と思いつつ受付で一般入場のチケットを買って、では入ろうと思ったら「一般入場は 12:30 からです」と制止される。えっ。なるほど確かにチケットにも手書きでそう書いてある。たぶん僕が要綱をちゃんと読まず相手の言葉をよく聞き取れなかっただけなのだろうと思って外へ。

日陰とはいえこの暑い中を 30 分立って待つのはキツかったので冷たいものでも飲みながら時間を潰そうと思ってドリンクメニューのある手近な店に入るも、よく見たらさっき入った飯屋の別の入り口で、奥に進んだらさっきの所につながっていた。知らん顔して別の席に座ってメニューを頼むと店員が「**さっき来たお客さん**ですよ」と言ってくるも、う、うん…と思いつつ笑顔を返す。そのあと何か言っていたようだがおそらくは「さっきの残り飯はもう捨てましたよ」とかそんな内容だなと思いました。聞き流してドリンクを注文します。

荔枝角にあるマジックショップの位置を確認し「終わったら寄ってみよう」とか思いつつ時間を潰して、12 時半前に店を出て会場へ。

さっきよりも待機列が伸びていたものの、たいしたものでもなく、12 時半に動き出した入場列に沿って歩き、12 時 35 分には会場入りしました。

ステーキでしょということで迷わず注文を入れて、待つ。

だいたい一食を 50 ドルくらいで済ませている身としては 150 ドルと言うのは割と奮発しているとも言えるわけだけど、率直に言ってステーキコースでこの値段なら高給店とは言い難くむしろかなり格安の庶民向けレストランと言えるのではないかと思います。

例によって 20 をかけると「うっ…」という値段ですが、実際のレートが香港ドル 18 円くらいだったのはともかく、体感的にはドル 10-15 円くらいで気持ち良く使ったほうが良さそう。

前菜のパンとスープを食べてから
メインディッシュが、どーん！

さて、果たしていまの俺の胃袋は
これを完食できるだろうかと思いつつ、ふうふう言いながら味わいます。うん、美味しい。

例によって 2/3 くらい食べた頃に
満腹のシグナルが出るも「草原の男はこの程度のラム肉を完食できないようでは嫁など貰えない」と乙嫁語りのことを思い出し自分に言い聞かせながら食べる。



森薫の漫画「乙嫁語り」にそんなセリフはありません。

乙嫁物語のことを思い出したら食欲が甦ってきたので引き続き完食。なんちゃって完食ではなく、ナイフとフォークを使わず骨肉を手にとって（正式な作法？）骨の周りの肉をぜんぶ歯でこそげ落としてたり、添え付けの野菜やポテトも全部たிராげての完食。

美味しかったー！ ドリンクと税込で総額 188 ドル。20 時、心から満足して店を出ます。

あとはスーパーで飲料などを補充して、帰ってゼルダをしつつ楽しく終了しました。

明日は日曜日。実質、今回の香港観光の最終日です。

PART 4

深水埗など



おもちゃ問屋街

引き続き、おもちゃ問屋街の散策を楽しく続けます。
つぶさに本書には書きませんが、

「このPUIPUIは多分、台湾の会社の正規品の輸入品だな」

「ポケモン（中文版）や日本のTCG（輸入品）もたくさんある。見当たらないのは、僕らのマジックだけだ（街のおもちゃ屋ラインを捨てたから）」

「ボドゲ売り場も普通にある。中文版だから買わないけど」

「エロいネタのカードゲーム、ラスベガスの露店でも似たような見たな」



「安倍晋三と習近平とプーチンのフィギュア…」

「誰も喜びそうにない内容だけど、シャレでいやげものに買うには68ドルはキツイかな」

「安倍晋三が4番だから少なくとも4種類出ているみたいだけど、売り切れている1人は誰かな（箱には書いてありませんでした）」

「少し古いもの（安倍晋三だしね）みたいだから、ゼレンスキーではなさそう」

「蔡英文かな？それならそれだけ人気で完売もわかる」

そんなことを考えつつ、ぶらぶらと散策を続ける。楽しい。

買った

ぶらぶらするうち、とあるおもちゃ屋で「DC SUPER HERO Girls Mission Vehicle」という商品を見つけて「あっ！これ欲しい！」という強い衝動を抱きます。

海賊版でもない公式の著作権商品のようなのですが、DCのヒーローガール達の乗りものという謎の設定のおもちゃです。バットガールとワンダーウーマンのフィギュアもついています。でかい。気になるお値段を聞くと268ドル。うーん…高くないよなあコレ。買っちゃおうかな…いやいや

のんびりバスに乗って尖沙咀まで戻り、スーパーで少々の飲食物を買って、重慶大廈の八百屋で夕食のバナナ3本（笑）を買ったうえで部屋に戻って、熱いシャワーを浴びてさっぱりします。ふー、生き返ったぁ。

17時。夜はまだこれからですが、奮発した食事は昨日堪能したし、現在はそれほどお腹もすいていませんのでバナナで充分。

時間的に「足マッサージ」とかいう選択肢もあったんですが、実のところ今の香港だとそこそこお値段もしそうであるし、実のところそれほど足も疲れてません。今日も16300歩ほど歩いてはいるんですが、歩き疲れる前に暑さで体力を奪われてどこかで涼むパターンの繰り返しなので、歩きすぎて足裏が痛いということもなく、揉んで欲しいともあまり思わなかったし。

さて、どうしようかな…。

141を覗いてみる

つらつら考えるうち「141が営業しているかどうかを確かめてみたいな」という気持ちが湧いてきました。

「141」というのは香港の風俗業というか売春なのですが、香港では管理売春は違法ですが個人営業の売春は合法なので、香港で成立しているスタイルの売春産業です。

具体的には知る人ぞ知るマンションにはその手の室が多数あるフロアがあり、そこを訪れる客は、客待ちの状態（いま客を取っていない状態でもある）の部屋のピンポンを押して、ドアを開けた女性とご対面のうえ、合意すればそのまま中へ…というスタイルの風俗です。

興味のある方はネットで「香港 141」とか検索してみてください…。

香港の141は大昔からある香港名物の風俗産業なのですが、ここでの自分の興味は「現在でも、141は営業しているのだろうか」ということでした。つまり現在の香港は、

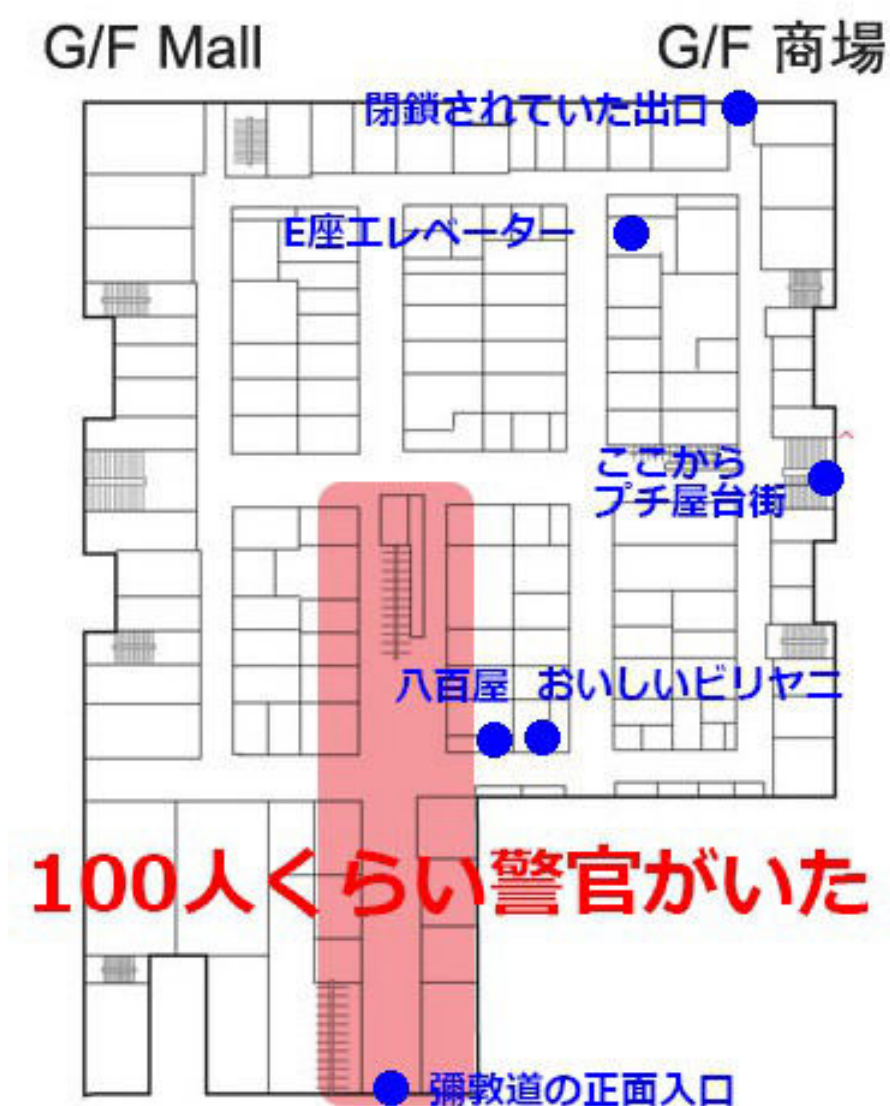
- ・コロナ禍で2020年～は壊滅的に風俗全般が途絶えた（まあ他人と肌を合わせるし…）
- ・中国は2020年以降、反政府運動の治安維持にたいへん厳しい（現在に至るまで）
- ・そもそも「市民が普通に夜に出歩けるのだろうか」

いうことすら「わからない」レベルの状態だったわけです。

実際、ネットでの香港141情報はたぶん今でも「2019年より前の情報」が大半の筈です。

PART 5

帰国日



重慶大廈のグラウンドフロア（マップは重慶大廈のサイトより）

木曜のガサ入れも、いまはいい思い出

朝食のビリヤニ

荷造りを終え、だらだらツイッターなどしているうちにそろそろ9時です（ゼルダはしませんでした）。お腹もすいてきたので、外に出ることにしました。

何にしようかなあと思いながら、重慶大廈に泊まっているのに、まだインド料理を食べていなかったことにも気がついたので、朝食はビリヤニにしようかなと思いました。



重慶大廈は貧乏バックパッカーにも人気のためか、食堂はイスラムやインド系の店も多いです。レストランでなく「食堂」と呼びたくなる店構えの店ばかり。大好き。

旨そうに各種食材をガラスケースで陳列している飯屋があったので、ビリヤニにチキンカレーをトッピングしてコーラでいくらと聞くと「45ドル」と言ってきたので即応。奥に入って座ります。少し待ってから料理が到着。うん美味しい。ベースのビリヤニも、鶏の足も、カレーも美味しい。幸せ。しかし少しカレーの量が少なめだったと感じたので店員を呼んで「カレー足してくれますか」と頼んでもうひとすくいかけて貰います。

量は十分あったので途中で胃袋が満腹サインを出して来たものの「草原の男は皿一杯のビリヤニごときを完食できなくては嫁は貰えぬ」と呪文を唱えて、完食。

ふー、おいしかったあ！ トッピング追加料金もなく45ドルのままでした。この店は当たり。

京都念慈菴の枇杷のど飴

9時半。満足して店を出ます。では腹ごなしに近くを軽く歩いて、しめましょう。

そこで女房から「見かけたら買ってきて」と頼まれていたアイテム「京都念慈菴の枇杷のど飴」を探しに行きました。

<https://eslitespectrum-nihonbashi.shop/items/62773b2ae3bbd115fb22c560>

あとがき

というわけで無事に終了した「香港旅行記 2023」みなさまお楽しみいただけましたでしょうか。香港旅行を決めて実行するまでのあらましも本書に書きましたけど、とりあえずコロナ禍の前は普通に毎年のように遊びに行った香港がほぼ「完全復活」できたのは本当に喜ばしいことです。まあ国内はまだ相当にピリピリしてはいますけど（笑）。

正直、コロナの根絶はもう諦めるにしても、とりあえずもう「入国前または入国後に PCR 検査で 2 万円」とか、「入国後に〇日間の軟禁」とか、**つきあうの無理**ですとしか。

そりゃまあ 2021 年秋のラスベガスのときは「だめだもう海外旅行口スで死んでしまいそう」な**禁断症状**が出ていたので「わかった、あと 5 万円出せばいいんだな」みたいな感じではあったんですが、あれから 2022 年にも再度ラスベガスに行って、タイにも台湾にも行けた今は「LCC のセールで往復 2 万円とかは当面は諦めるにしても、アジアへのエコノミー**貧乏旅行**を好む自分が PCR 検査だけで 2 万円とか、もうつきあえんのお気持ちのほうが強くなりました。今回の香港も、4 月に陰性証明書要求が無くなったので遊びに行くことにしたというのも本書で書いた通りです。

さらにそれとは別に何年か前からの傾向として**酷い円安**が進行中で、USA だけではなく日本からアジア諸国への各種遊行費自体が明白に高くなってます。基本、これは自分のような「海外旅行大好き！」人間には逆風ですね。

まあ、それでも予算を増やしつつ遊びには行くんですけどね！（だって何より、楽しいから）

本書は「2023 年の夏コミケの新刊」になりますが、すでに 9 月のラスベガス行きを決めたので、2023 年の冬コミケの新刊はそれになることでしょう（笑）。乞うご期待。

香港旅行記 2023

発行：新小岩マジック <https://twitter.com/kondohi>

発行日：2023 年 7 月 1 日（V1.0）

本書の文章や写真などの無断転載を禁じます



玩具屋巡りと 即売会



新小岩マジック